

政策コメンテーター報告(第4回)(意見照会期間:2015年8月18日~8月28日):金城 棟啓 株式会社琉球銀行代表取締役頭取

質問事項		選択式回答	記述式回答
<b>経済動向</b>			
1	<p>2015年8月下旬から9月上旬にかけての経済状況について、関連する業界、地域等の現状やご自身の知見・経験等を踏まえ、3か月前(2015年5月下旬から6月上旬)と比べて良くなっているか、悪くなっているか選んでいただき、その理由をデータや具体的な事例とともに300字以内でご記入ください。その際、前年との違い等お気づきの点があれば併せてご記入下さい。なお、政府の景気認識については月例経済報告の中でお示ししているのをご参照ください。</p>	良くなっている	<p>沖縄の足下の景気は、個人消費が好調となり、観光が好調を続け、建設も概ね好調に推移していることから、拡大の動きが強まっている。特に、観光において外国人観光客の大幅な増勢が続いていることに加え、個人消費において冷蔵庫や洗濯機などの耐久消費財がプラスに転じたことが数か月前と比較して良くなった点である。また、2014年10・12月期から2期連続でマイナスだった中小企業の業況判断DI(沖縄県中小企業家同友会)の足元および見通しがプラスに転じたことも特筆され、景気拡大が中小企業に波及する動きが期待される。一方、今年は台風の襲来が増加しており、農林水産業の被害総額が8月24日時点で昨年を上回り過去10年で2番目の規模となっている。年々巨大化する台風であるが、今後の襲来状況によっては農産物や観光などへのさらなる影響が懸念される。</p>
<b>デフレ脱却・経済再生を確実にするための取組</b>			
2 - 1	<p>(別紙5)の1.(1)のとおり、経済財政諮問会議ではデフレからの脱却、経済の好循環の拡大に向けた取組を進めていくこととしておりますが、現場の実情や地域の視点から特に強化・加速すべきとお考えになる取組について具体的なご意見がございましたら300字以内でご記入ください。</p>	-	<p>沖縄県においては、物価は足元前年比下落しているものの、円安を背景とした外国人観光客の大幅な増勢等を主因に景気の拡大基調が続いている。これに伴い有効求人倍率の上昇や女性を中心とした失業率の低下といった労働需給の引き締めから賃金が上昇し、個人消費や設備投資が増加するといった経済の好循環に向けた動きがみられる。今後、中国経済の変調等の外部リスクには注意が必要なもの、現在の基調が今しばらく続き、有効求人倍率が1を超え、男性失業率が着実に低下していけば、デフレ脱却が見通せる状況も期待できると考えている。</p>
2 - 2	<p>また、(別紙5)の1.(2)のとおり、経済財政諮問会議では我が国経済の潜在的な成長力の強化について取組を進めていくこととしておりますが、現場の実情や地域の視点から特に強化・加速すべきとお考えになる取組について具体的なご意見がございましたら300字以内でご記入をお願いいたします。</p>	-	<p>沖縄県では、インバウンド客の急増等により宿泊施設での人手不足やクルーズ船接岸施設等のインフラ不足など供給面での制約が生じている。インバウンド客はアジアのゲートウェイとして今後も着実な増加が見込まれることから、クルーズ船専用バースの追加整備や本島東海岸の港湾での受入開始等に向けたインフラ整備が急務である。一方、好調な沖縄観光を背景に宿泊単価の上昇がみられ、また、人口が増加している沖縄も生産年齢人口は減少していくものと見通されることを踏まえ、観光産業についても量的拡大から高付加価値化へと転換を図る好機が到来しているとも考えられる。このため、ホテルについてはリニューアル投資等により富裕層に対応できるものへと進化させるほか、計画されているMICE施設の整備や語学を含む人材育成を着実に進めつつ、成長産業としての観光産業に労働移動を促すことで、世界的なりゾート地形成を目指していくべきと思われる。</p>